

「ミミズにしか見えない...」
初めて「オオ文字を目にし
たとき、私は絶望した。

国際協力機構(JICA)海
外協力隊員になるためには訓
練所へ入所し、語学訓練とラ
スト合格が必須条件である。

3年半前に入所前、JICA
Aから「オオ文字と簡単な
日常会話の習得」という課題
を課せられたが、仕事の忙し
さによる気の問題で課題を終
えられなかった。

3年前、コロナの影響で、
訓練が延期になった。先の見
えない延期にさらに絶望した
が、持ち前の楽観的な性格か
ら「課題のための延期期間
だ」と気持ちを切り替え、自
分を奮い立たせた。何度も何

度も文字を書いた。しかし、
どの文字もやはり「ミミズに
見えなかった。

2年前、訓練が再開され、
一日中語学に励む日々。宿題
も課され、慣れない「オオ文

自分にあつた方法で

金城 千秋

(元JICA海外協力隊員、小学校教諭)

字と乏しい語彙力で作文練習
に取り組んだ。たった一文を
書くことにも時間がかかる。
同期が「スラスラと書いてい
く中、私は文字の読み書きに苦
戦した。教える側から教わる
立場になり、読み書きが十分

でない中で一日中座って授業
を受ける苦しさを感じた。勉
強が苦手な児童の気持ちがあ
つた気がした。

しかし、先生の話す言葉を
聞いてまねることは得意であ

た。繰り返し発音し、単語を
覚え、会話ができた。「オオ
入国後は、語学が楽しくなっ
た。もともとおしゃべりな私
は「オオ」と過す時間が大
好きで、「オオ」人のまねをし
ては一日中会話を楽しんだ。

読み書きの練習よりも、会話
を通して語学を身に付ける方
が私には近道だったのだ。

そういえば、教員採用試験
も暗記するものは全て録音
し、その音源を聞いて覚えた
ことを思い出した。私は目で
見る情報よりも、耳で聞く方
が記憶や理解がしやすい「聴
覚優位」なんだと確信した。

教育現場に復帰した今、児
童の特性に応じて勉強方法も
多様であるべきだと思ってい
る。それぞれが自分にあつた
方法を見つけ、取り組むこと
で、学びがさらに楽しく深く
なることを感じてほしい。今
の私が「オオ文字の読み書き
が楽しくなり、もう「ミミズ」に
見えなくなったように。

コエ文字について

○便利なコエ文字、好きな言葉 (外務省ホームページあり)

☆ *Wubuney*

「ホーペンニヤ」

(大丈夫、何でもない、どういたしまして、と様々な場面で使える便利な言葉。)

☆(U) 「U」

(語尾につける「～ね」のような言葉。Aさん：「U?」、Bさん：「U。」のようになり、ただで会話が成立したりしてちょっと可愛い。)

☆ *Wubuney*

「セクチ」

(酔っ払いが来たら蹴ってやるぞ、という意味で、「狭くて」と同じ発音。日本語の挨拶と勘違いしている人が結構たくさんいる。コエの若者に言うと、

受けること間違いなし。)